

議会だよりの入善

GIKAI

DAYORI

NYUZEN

No.161
2012年 4月27日



はればれ入学式（飯野小学校）

3月定例会

コミュニティ施設整備の促進（平成24年度予算） 2～3p

温泉使用料収入の内訳は（常任委員会レポート） 4～5p

3億円を基金に積立て（3月補正予算） 6p

東日本大震災がれき処理推進を求める意見書（議員提出議案） 7p

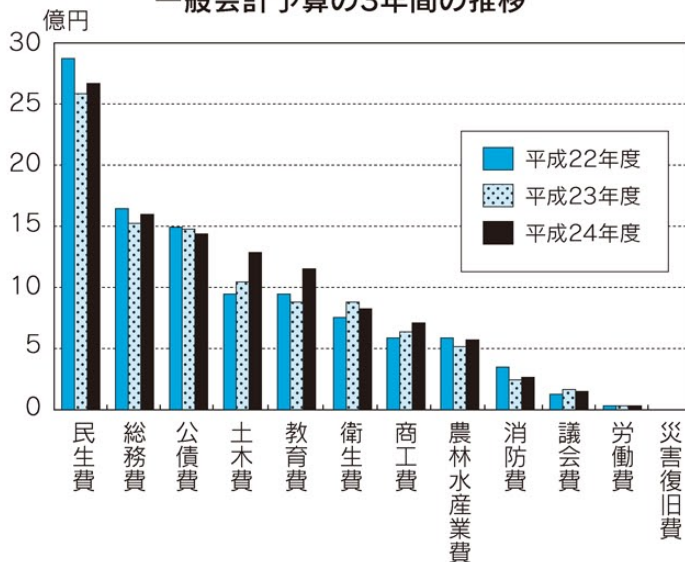
町政を問う 代表・一般質問（8議員） 8～15p

芦崎の春祭り「えびす祭り」（入善の祭り） 16p

コミュニティ施設整備を促進

舟見地区公民館建設・野中地区公民館着手

一般会計予算の3年間の推移



新年度予算の特徴

一般会計
特別会計

100億6千万円
52億3千万円(6会計)

3月議会は、1日から19日まで開催され、平成24年度の一般会計と特別会計予算7件、23年度補正予算4件、条例の制定・一部改正など14件、議員提出議案3件を審議し、すべて可決した。また、陳情2件については不採択とした。

本年度の一般会計当初予算は、前年度より6.7%増。5年ぶりに100億円超の大型予算となった。

民生費では、上原・青木統合保育所整備が着手される。

土木費では、舟川ダム周辺の環境整備、青野パークゴルフ場拡張整備、入善南公園整備、雇用促進住宅入善宿舍購入などにより大幅な増額となった。

また、教育費でも、コミュニティ施設整備で、舟見地区公民館の建設、野中地区公民館の設計に着手する。

商工費では、新たに里山温泉観光施設の管理運営費が加わった。

主な事業

(1) 豊かな水、みどりを守る

・地下水の利活用と保全についての基礎資料とするため地下水流量などを調査する。

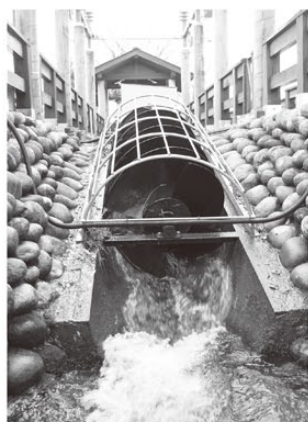
472万円

・再生可能エネルギーである小水力発電の実用化に向け実証実験を行う。

450万円

・放射線への正しい知識と理解を深めるため、全小中学校に副教材として放射線測定器などを整備する。

119万円



「ダイロ」で小水力発電

(2) 地域資源を活かして

・本年度策定される「人・農地プラン」に基づき、青年新規就農者に対し、年間150万円を最長5年間給付する。

450万円

- ・「人・農地プラン」に基づき、農地集積に協力した土地の所有者などへ協力を交付する。 1290万円

- ・みな穂農協の農産物販売施設整備に支援。 600万円

- ・里山温泉観光施設に係る管理運営費、運転資金貸付金や施設管理基金積立金。 5000万円

(3) 快適に安心して暮らせるよう

- ・舟川ダム周辺において展望広場を整備する。 3068万円

- ・地域住環境の整備を図るため、空家の活用や同居・近居に対する助成制度を創設。 230万円

- ・入善南公園整備に係る測量設計や用地取得を行う。 7359万円

- ・本年度の完成を目指し、青野パークゴルフ場の拡張整備工事を行う。 5500万円

- ・雇用促進住宅入善宿舎を取得する。 5741万円

- ・津波対策を盛り込む地域防災計画の改訂や、海拔表示付きの避難所誘導看板の設置を行う。 712万円

(4) 健康で幸せに暮らせるよう

- ・上原・青木統合保育所整備に伴う用地費及び造成費。 8802万円

- ・高齢者・障害者（児）・児童を対象とした富山型デイサービス施設整備に支援。 400万円

- ・産後に子どもの養育が著しく困難となった場合、育児・家事援助のホームヘルパーを派遣する。 57万円

(5) 地域コミュニティの活性化に

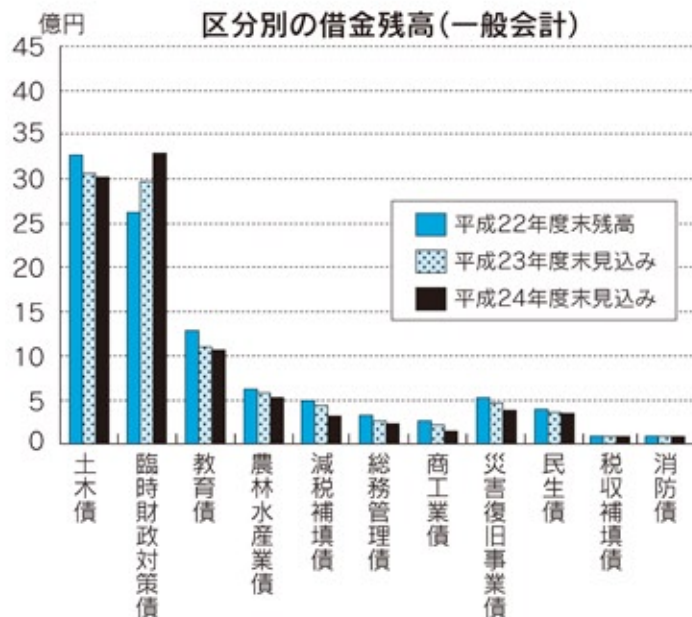
- ・老朽化した舟見地区交流センター（仮称）の建設とあぐり館を取壊し、野中地区交流センター（仮称）の設計などを行う。 3億5882万円

- ・「第4次にゆうぜん男女共同参画プラン」を策定。 127万円



完成まじかの舟川ダム

町の借金の内容は



一般会計の地方債（借金）残高は、平成24年度末見込みで、108億4795万円である。

臨時財政対策債とは、地方の財源不足を補てんするためのもので、元利償還金の全額が後年度交付税措置され、いわば交付税の肩代わりといえるものである。年々増加し、24年度末では最も残高が大きくなる見込み。

土木債は、道路関係のものが主である。教育債は、主に学校施設の建設・改修やコミュニティ施設整備のためのもの。

レポ-ト

総務 常任委員会

保育所運営費と保護者負担金の状況は

- Q** 保育所運営費の実情と保育費全体に占める保護者負担金の状況は。
- A** 運営費総額は6億8590万円、入所児832人、1人当たり82万4000円相当だ。近隣市町では、100万円前後である。保護者の負担割合は全体の28・4%である。
- Q** 新年度保育計画では保育士の不足も懸念されるが、対応策は。
- A** 3歳未満児の受け入れは全ての保育所で取組んでいる。0歳児保育については施設面で難しい南部、飯野、横山の3保育所を除き取組んでいる。年度途中での0歳児保育の希望が増加する見込みであり、順次保育士の

補充を図りたい。

温泉使用料収入の内訳は

- Q** 町が取得した温泉の利用先からの使用料収入内訳を示せ。
- A** 1人当たり150円である。バーテン明日から年間1000万円、ふれあい温泉405万円、寿楽苑270万円、明日温泉デイサービス325

万円で、総額2000万円を見込んでいる。

地区振興補助金のあり方を見直すべき

- Q** 地区振興補助金の算出に、税の収納率を今後も継続するのか。
- A** 町税の100%完納地区は42地区で補助率は1・2倍である。収納率は34地区で、今回補

地域は34地区で、今回補



みんなでグー・チョキ・パー（青木保育所）

助率の見直しを行い0・8倍から0・9倍に引き上げた。減額のあり方を検討したい。

消防団の運営費は町予算で見るべき

- Q** 団員の被服費、消耗品など運営費について、地区で負担しているところがある。住民負担の現状をどう思うか。
- A** 町で取組むのは当然で、団員の出場手当をプールして対応しているところや、地区負担の問題など今後充分検討したい。

- 被服品の更新など、他市町とそん色のないよう、今後注意して取組みたい。
- Q** 消防団員は高齢化してきたている。有事の際の対応など組織の見直しが必要だ。町職員の見直しも必要か。

- A** 消防団の役割はますます重要だ。組織の強化策や町職員の参加のあり方など検討したい。

こんな意見も

●保育所の3歳未満児受入れについて、母親の育児休業取得で、家庭で保育ができる状況と判断されたことから、保育に欠けない子どもとして退所させられるケースが相次いだ。

町当局の思いと町民ニーズに隔たりがある。保護者に詳細な事前説明が必要だ。



訓練に励む消防団員

常任委員会

産業教育 常任委員会

**水道対策費補助金の
内容は**

Q 今回の簡易水道施設補助金の対象地区はどうか。

A また、町内の水道組合の現況はどのようになっているか。

A 給水管整備や井戸のさく井で、国道筋と栲山上部水道組合に補助

をする。

町内の水道は、町簡易水道が7組合、町で認可しているものが24組合、組合営が8組合、無認可の組合が20組合だ。それぞれに水質検査などの助成をしている。

**新規農業支援事業の
内容は**

Q 戸別所得補償経営安定推進事業の内容は。

A 平成24年4月からの新規事業である。農地の集積を図るため、

離農する者に支払う制度である。面積に応じ、最高で70万円の協力金が交付される。

離農者は、農業公社に10年間以上の白紙委任をすることや、コンバインなどの農業機械の廃棄処分、または無償譲渡などが求められる。

また、農地の集積に協力する農家には、10坪当たり5000円の協力金を交付する。

**公共交通への取組み
姿勢は**

Q のらんマイ・カーやスクールバスの運行を合理的にし、公共バスの運営費縮小を考えてはどうか。

A 冬期には黒東小学校の一部児童が、のらんマイ・カーを無料で利用している。また、土日には入善中学校の部活での利用もある。

現在、スクールバスは平日のみの運行のため、今後は、のらんマイ・カー

の見直しなどの中で考えていきたい。

Q 現在の低い乗車率でいいのか。デマンド交通など柔軟な対策を。

A バスの継続は必要だ。デマンド交通も充分検討し、必要最小限の公共バスをめざす。

**バーデン明日の指定管
理者の選任経緯は**

Q バーデン明日の取得と指定管理者選任の経緯を明らかにせよ。

A 昨年6月頃に持上った話だが、説明の時期が遅れた。

その結果、不信任を招いたことはお詫びする。接客サービスも改善して、喜んでもらえる施設にしたい。

Q 指定管理者をなぜ公募しなかったのか。

A 今回は一般公募はしなかった。審査の結果、町が出資する第三セクターを管理者に指定した。

こんな意見も

●「のらんマイ・カー」が、定事前に発車して、高校生がバス停に置き去りにされた。
公共バスは、運転や走行に注意を払うのはもちろんだが、乗客への気配りも求められる。



利用増が期待される「のらんマイ・カー」



町民の憩いの場に「バーデン明日」

3月補正予算を可決 3億円を基金に積立て

主な事業

除雪対策事業費

7100万円

今冬の断続的な降雪による除雪経費の不足により増額する。

小学校施設維持管理費

3500万円

飯野小学校のグラウンド整備のため表土改修工事を前倒し実施する。

小中学校教育振興費

100万円

米山六博氏の寄附金を活用し、小中学校にオーバーヘッドプロジェクターを配置する。

林業振興事業費

200万円

園家山キャンプ場の松くい虫対策に係る委託料を増額する。

基金積立金

3億円

繰越金として見込める額を、財政調整基金及び減債基金として積み立てる。

国保特別会計 7314万円を増額し、総額26億1167万円とする。

○ 一般・退職被保険者療養給付費 7330万円

高度治療を要する疾病患者の増加により、療養給付費を増額する。

主な条例の改正

次の条例案などを審議し、可決した。

暴力団排除条例の制定

社会が一体となって暴力団の排除を総合的に推進し、町民の安全で平穏な生活を確保する。

里山温泉観光施設管理基金条例の制定

里山温泉観光施設の保全、修繕及び改修などのための財源として基金を設置する。

税条例の一部改正

東日本大震災を契機に防災施策に必要な財源を確保するため、個人町民税の均等割を平成26年度から35年度まで、年額500円引上げるなど。

町営住宅条例の一部改正

地域主権改革一括法の制定に伴い、単身入居要件が各自治体に委ねられたことから、要件を条例に盛り込んだ。

都市公園条例の一部改正

「入善町フラワー公園」の名称を「ゆうかり公園」とする。

上飯野墓地公園条例の一部改正

「上飯野墓地公園」を「やすらぎ公園」と名称変更し、拡張整備した区画の位置と使用料を定める。

健康交流プラザの指定管理者の指定について

(株)新川ビルサービスを指定管理者として指定する。

里山温泉観光施設の指定管理者の指定について

入善里山観光開発(株)を指定管理者として指定する。

長田議長 県町村議長会長に就任

2月16日に開かれた富山県町村議長会長の臨時総会において、町議会の長田武志議長が会長に選出された。

入善町議会が優良議会表彰

このたび、町議会が全国町村議長会から平成23年度優良町村議会表彰を受賞。受賞理由は、会議録の公開、議会広報発行、本会議のインターネットやケーブルテレビでのライブ中継など、住民に開かれた議会の取り組みが評価された。

議員提出議案

特定疾患治療研究事業の対象疾患の安易な見直しに反対する意見書

難病患者が良質な医療を受け、安心して生活できるために、事業対象疾患の安易な見直しを行わないよう国に対し意見書を提出する。

賛成全員で可決とした

東日本大震災で発生した災害廃棄物の広域処理の推進を求める意見書

東日本大震災に係る災害廃棄物の処理の推進を図るための対策について、速やかに実現するよう国に対し意見書を提出する。

賛成全員で可決とした

戸別所得補償制度の見直し等、農業政策の立て直しを求める意見書

早急に農業・農村の衰退をくい止め、農業政策の立て直しを図るため、戸別所得補償制度の見直しなどの対策について、実現するよう国に対し意見書を提出する。

賛成多数で可決とした

陳情

公的年金の改悪に反対する意見書提出を求める陳情

公的年金の「特例水準解消2・5%削減」は行わないよう国に意見書を提出するよう求める。

反対多数で不採択とした

「障害者総合福祉法のサービスと介護保険法のサービス」を当事者の意思で選択・併用を求める国への意見書についての陳情書

（12月定例会で継続審査）

反対多数で不採択とした

固定資産評価審査委員会委員の選任

3月21日で任期満了となる固定資産評価審査委員会委員に、上田卓治氏を引き続き選任することに同意した。

（任期は3月22日から3年間）

上田 卓治 氏

（入膳）

1月臨時会

温泉権とともに「バーデン明日」を取得

1月20日臨時会を開会し、温泉権、温泉宿泊施設「バーデン明日」や土地の財産取得と、それに係る補正予算及び施設設置条例の制定などについて審議し、すべて可決した。

里山温泉観光施設設置条例の制定

町民の健康の維持増進と観光振興などを図るため、「バーデン明日」を里山温泉観光施設として設置し、管理運営を指定管理者制度で行う。

補正予算の概要

○ 里山温泉観光施設等取得費 1億円

○ 管理運営会社設立出資金 600万円

その他の補正予算

県の安心子ども基金を活用し、児童施設にミニ文庫やAEDパッド、遊具などを整備する。 653万円

（整備する施設）

各保育所、西部児童館、児童センター、入善幼稚園、飯野・桃李学童保育、病児・病後児保育施設「暖家」。



元島 正隆 議員（アクセス入善）

新年度予算の最大コンセプトは何か

町長 編成 健全財政の堅持・地域力向上予算を重点に

問 5年ぶりの100億円台、前年度比6・7%増の100億6460万円。大型予算となったが重点事業は何か。

米澤町長

主な事業は、

舟見地区コミュニティセンターの建設や地区振興補助金の拡充、青野自然公園パークゴルフ場の増設、大震災を受けての海抜表示の設置、保育所の統合、住まい・まちづくり推進事業補助金の創設など、数多くの事業に取り組むことにした。

問 新川地域消防広域化協議会が発足。新たな防災計画と町の新消防庁舎の建設構想をどう描いているか。

町長

昨年末に協議会が発足し、1市2町での消防業務の連携が推進される。今後、広域消防運営、地域に密着した消防防災活動計画が示される。

新年度で消防防災センター建設に向け、基本設計に取組む。建設場所は、国道8号バイパス付近や運動公園周辺など、災害時に影響を受けにくい候補地を選定したい。

観光に対する将来構想を示せ

新たに観光協会設立で観光資源の発掘へ

問 新たに観光協会が設立されるが、北陸新幹線開業に向けて、交流人口増にどう着手するのか。

林副町長

新しい観光協会は、民間を中心とし、全町的な観光資源の魅力発掘に向け、組織強化す

るものである。バーデン明日は町唯一の温泉宿泊旅館であり、観光客誘致拠点施設として運営する。

町が運営する住宅行政の基本的考えは何か

雇用促進住宅を町営住宅の代替として活用

問 老朽化した舟見・棚山・上原地区にある町営住宅と、今年取得する雇用促進住宅や民間アパートとの整合性をどう見るのか。

大角建設下水道課長

雇用促進住宅入善宿舎の改修工事を行い、1〜3階の47戸は一般公営住宅、4〜5階の32戸は若者を中心とした住宅とする。

上原住宅の代替施設としても活用したい。

舟見、新棚山の両住宅は、今後建て替える。東町、駅南住宅は長寿命化対策で対応する。

町合併60周年事業に名誉町民歴史展を

記念事業準備委員会で検討する

問 町の歴史をつくり支えた名誉町民の歴史展の開催を考えているか。

草島総務課長

来年10月1日に合併60周年を迎える。記念式典や記念要覧の作成、記念事業などを実施したい。

具体的な内容は、庁内で組織した準備委員会で検討していく。



増設中の青野パークゴルフ場

保育士確保と臨時保育士の待遇改善を

総務課長 必要な正規・臨時保育士の確保に
努力する



保育所の入所式（東部保育所）

問 保育所は、0歳児、2歳児が増えているのに、保育体制が充分でなく保育現場は大変だ。

保育士確保と臨時保育

士の待遇改善を図る考えはあるか。

総務課長 保育士は正職員が63人、臨時職員は52人。23年度から常勤の臨時保育士は、日給制から月給制にし、一時金も支給している。

追加募集で年齢制限を緩和し、臨時保育士から4人を内定した。

臨時職員全体の待遇改善も充分配慮したい。

問 町内企業では派遣労働者が増えている。高齢者は介護保険料などの負担が増えるばかりだ。

消費増税は、くらしも地域経済も疲弊させる。認識を問う。

町長 企業には正社員化

や雇用拡大を要請している。消費増税は格差社会を広げる弊害がある。

並行在来線の快速は金沢から糸魚川までに

町議会とともに県に要望

問 快速列車は金沢駅から糸魚川駅までにすることが重要だ。

糸魚川市議会は、特急北越は糸魚川駅、新潟駅間の運行を求めている。町はどう考えるか。

JRからの経営分離に同意の際、県に入善駅北側に乗降口設置を求めたが、今はどう考えるか。昇降機設置の見直しは

どうか。

梅津企画財政課長 糸魚川駅までの運行は重要であり、町議会とともに県に要望した。今後も関係機関に働きかけていきたい。北越は、糸魚川駅と新潟駅間の運行が必要。

駅北側の乗降口は、企業の通勤者にも利便性が増す。駅北に住宅開発などの可能性もあり、利用者増も期待できるが、十分な検討が必要。

昇降機は、費用の一部を町で負担してでも、設置が必要と考えている。

宮崎・糸魚川海底断層調査の要望を

県や国に要望する

問 県地域防災計画見直し報告では、宮崎・糸魚川断層も津波シミュレーションの対象になったが、

調査が充分でない。

国に調査を求めるよう県に要望すべきでは。総務課長 これらの断層の調査研究を県へ申し入れてきた。引き続き県や国に要望していきたい。

舟見の歴史を地域振興に
充分検討したい

問 パーテン明日の利用者が舟見地域を散策し、歴史や文化に触れ、地域の特産物を買うなど、まちおこしにならないか。

そのために、本陣跡を部分的にLEDの提灯で表現、本陣絵図の複写図を掲示板に掲示、枱形の整備などを考えられないか。

副町長 観光振興、地域の活性化の観点から、提案も充分検討したい。



九里 郁子 議員（日本共産党）

スポーツを通じた新たな観光交流施策の
取組みを

町長 スポーツ団体だけでなく、地域や商工・観光団体とも連携し、検討する



大橋 美椰子 議員

問 昨年6月、スポーツ基本法が制定された。スポーツを通じた新たな観光交流施策の積極的な取組みを。

町長 観光庁ではスポー

ツツーリズム推進基本方針を策定し、スポーツと観光との連携を目指している。

町は自然に恵まれ、観光につながるスポーツも多くある。町内での合宿費用の一部を助成し、誘致活動を行っている。スポーツ団体だけでなく、地域や商工・観光団体とも連携し、スポーツと観光の振興について考えている。

防災での女性の活躍など、「男女共に」が期待される。町では働く婦人が多く、女性の活動の負担が重い。

男女共同参画型社会の形成は大きな課題。地域啓発へどう取組むのか。滝本教育長 少子高齢化やライフスタイルの多様化により、地域コミュニティが弱くなったと懸念される。

現実を見つめ直し、相互の団体間での情報交換や、新規グループの発掘などを通じ、幅広い年齢層の方が活躍するように、情報提供や収集を図る。

各地区には自主防災の組織があり、女性が担え

る役割、女性にしか出来ない役割などを確認し、実践していくことが大切である。

「こころの健康」相談しやすい環境整備を
スクールカウンセラー
などの配置を要望

問 子どもたちなどの相談に応じるためのスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スタディメイトなど、それぞれの活動状況はどうなっているか。

また、生徒の安全に対し、警察や地域と町の連携が必要だ。取組みを示されたい。

堂徳教育委員会事務局長 精神科医に準ずる資格を有するスクールカウンセラーは、入善小と入善中、入善西中に配置し、そ

れ以外の小学校には、教育事務所配置のスクールカウンセラーを派遣している。

スクールソーシャルワーカーとスタディメイトは小学校だけに配置している。

児童や保護者、教員からの相談に応じ、必要となれば訪問もする。

問題は、複雑化しており、現場の教師にとっても大変な存在である。町への配置と派遣時間の増を要望する。

警察や地域、医師、弁護士などにも必要になってくるケースも想定される。

早期発見による対応が重要であり、地域との情報交換、共有も大切である。

相談窓口を広く周知し、子どもたちの心の健康に留意していく。



男女共同参画フォーラム（コスモホール）

男女共同参画型社会形成への地域啓発を
団体間の情報交換や
新規グループの発掘を

問 地域コミュニティや

町営バス運行の見直し
いつまで、どのように行うのか

企画財政課 課長

アンケート調査を行い早急に見直す

問 町営バス運行の見直しのために、どのように住民の意見を集めているのか。また、いつまでに見直しを進めるのか。

見直しは早急に行う。関係機関協議が必要なものは、充分検討を重ね、ある程度まとまった段階で対応していく。

利用者へのアンケート調査や乗務員との意見交換を行い、見直しに反映させる。

要望には、積極的に応えるべきだ。

町長 今後、町内会単位など地域に合った防災訓練などを行ってほしい。

楽しみながらの訓練など、自主防災アドバイザーの活用も必要だ。

建設下水道課長 避難経路について地区で緊急性や重要性を検討し、拡幅について協議してもらいたい。

西村消防署長 防火水槽は、立地条件、適正位置などを充分協議して設置していきたい。

自主防災組織は、町内会単位へ細分化し、薬しめる内容を含んだ避難訓練を提案しては。

津波避難に必要な道路の拡幅や防火水槽設置の



黒部川扇状地



松田 俊弘 議員

黒部川扇状地の特性を生かしたジオパークの検討を専門家の意見を聞いて検討したい

問 黒部川扇状地の成り立ちと歴史、文化、産業を、新たな地域振興に結び付けるジオパーク構想を検討してはどうか。

旧河道の位置、縄文人の暮らしぶり、荘園跡のじょうへのま遺跡などの研究を深めるために、専門的な知識を持った学芸員を置く考えはないか。

吉岡教育委員長 ジオパークは地球科学や環境問題の教育・普及活動を行うとともに、観光資源として地域の活性化に役立つ。

直ちにはないが、専門分野の方から意見を聞き検討をしていく。

文化遺産を見つめ直し、新たな提案を目指したい。具体的な調査研究が決定すれば、学芸員の設置などを検討する。

桃李小学校通学路の整備を確実に進めよう
遅れることがないよう
県に働きかける

問 桃李小学校から北側の県道の拡幅計画は、並行在来線の3セク化で遅れることはないか。

古黒部藤原線の藤原地内の拡幅計画はどうなっているか。

建設下水道課長 3セク化で遅れることがないよう県に働きかける。

古黒部藤原線については、測量と用地契約を済ませた。

環境基本条例制定への政策変更その要因は

住民環境課長

環境保全など総括的な条例整備急務



鬼原 征彦 議員

問 町は、23年度に地下水保全条例を制定する計画だったが、今回、環境基本条例制定に変更になったのはなぜか。

室住環境課長 豊かな自然環境から享受する恵みを将来に継承するためには、地下水だけでなく環境保全や再生エネルギーの活用など、総括的な条例整備が急務であるとの結論に至った。

問 環境基本条例の基本方針を示せ。

住民環境課長 環境政策の根幹となるものであり、とりわけ地下水は、その保全や利活用に係る基本方針を条例の中に位置づける必要がある。

新たに地下水水位観測井戸の設置や地下水流量等調査を実施する予定であり、調査結果を反映できるように検討したい。

問 地下水の現状をどう分析しているか。

住民環境課長 年間の地下水量は、降雨量などによつて変動はあるが、約3億2000万ト。揚水量は毎年約2億トと推計されている。

町内では、9カ所で地下水位の常時観測を行っており、現状では、地下水位の変動は非常に小さいものと見受けられる。

入善乙女キクザクラの公開と保護は
保存、管理、増殖について研究、検討する

問 入善乙女キクザクラの公開と保護対策をどう

進めるか。
町長 このサクラは、平成22年から県中央植物園へ調査を依頼していたが、突然変異の菊咲き性サクラの新品種であることの報告を受けた。

特徴として

- ①花びらが100枚以上で極端に細いことや、花の色が白から濃いピンクに変わることに。
- ②枯死したスギの株で生育し、自生の菊咲き性品種としては、静岡県富士宮市について2例目となる。

町にとっても大変貴重で、価値が高いものである。現在、保護方法について関係の方々に意見を伺っている。

「世界で一つだけのサクラ」として、中央植物園と入善高校農業科が連携

し、増殖技術の研究を進めてもらう。

国保会計の現状は

単年度収支は赤字

問 国民健康保険会計の現状をどう見る。

小堀健康福祉課長 23年度の決算見込みは、前年度からの繰越金と財政調整基金からの繰入金を除くと、単年度収支は1億6900万円の赤字となる。

この要因は、癌や脳血管疾患、虚血性心疾患などの高額医療費の増加によるもの。

24年度においては、保険給付費の動向次第で、国保事業の運営は大変厳しい状況になる。



入善乙女キクザクラ（富山県中央植物園提供）

「黒部川明日温泉」の活用を問う

町長 お湯の安定供給量を把握し検討する

問 町が取得した「黒部川明日温泉」の利活用について、青野パークゴルフ場付近や「はば」上での展望浴場などへの展開

を考えてはどうか。

町長 現在、日量約400リットルのお湯を、ふれあい温泉や寿楽苑、バーデン明日や明日温泉デイサービスセンターに供給している。

データによると日量60リットル揚水量を増やすと、4〜5リットル水位が下がる。専門家の意見を伺い、余裕があれば検討したい。

問 老朽化も目立つバーデン明日の運営理念と基本構想は何か。

修繕費は、どの程度を考えているか。

企画財政課長 この施設を町民の健康増進と町全体の観光交流の拠点と捉えている。今後、さまざま

な施策の展開が必要だ。

修繕費は940万円を見ているが、当面は現状のままでの営業を考えている。また、温泉使用料の一部を将来の修繕などの財源として積立てる。

入善里山観光開発株式
設立趣旨を問う

指定管理者の選任と
経営の自由度を高める

問 バーデン明日を運営する3セク会社で、町からの役員が1名なのはなぜか。

なぜ町長が代表取締役でないのか。個人株主が存在するのはなぜか。

町長 設立までの時間不

足のため、現役員は4名と監査役1名とした。今後は企業・団体からの就任を考えている。

経営の自由度を高めるために代表に就任しなかった。

個人株主については経営責任を明確にし、強く自覚していただくためだ。

問 町からの3000万円の運転資金は確実に回収できるのか。

企画財政課長 この会社は発足間もないため予算計上した。

営業実績を積みれば銀行借入れも可能となり、確実に返済される。

問 この施設の営業をすすめるに当たって、営業計画書や財務諸表を精査したのか。

企画財政課長 現在の会社のここ数年の営業収支資料を検討している。費用の大部分は人件費、光

熱費などだ。

今後は固定資産税や減価償却費が不要となり、赤字にはならないと試算した。

問 今後、この法人の指定管理者の選任が諮られるとのことだが、時間的余裕はあるのか。

企画財政課長 現在、運営責任者になる予定の方が、精力的に引継作業や従業員との面接を行っている。

現従業員を引継ぐことから、4月1日開業には混乱はないと考える。

問 この法人の指定管理者としての業務範囲はどこまでか。

企画財政課長 温泉源も含めた施設の適正な維持管理と、入浴客などの利用者への適切なサービス提供だ。



観光の拠点をめざす「バーデン明日」



佐藤 一仁 議員

新年度の大型予算の財源裏づけは

町長 交付税など確実に見込める額を計上した



野島 浩 議員

問 平成23年度一般会計決算見通しと、平成24年度大型予算の財源の裏づけは。

町長 厳しい状況下にあ

りながらも、コスト意識を持って、効率的な予算執行に努め、23年度は約4億円余りの繰越金を見込んでいます。

24年度予算は、「地域力向上予算」とし、一般会計の総額は、5年ぶりに100億円を超える大型予算とした。

財源については、交付税・補助金など確実に見込み得る額を計上した。

問 今後、大型事業が見込まれる。臨時財政対策債などで地方債残高の増加が確実に予想される。

将来の健全財政についての見解は。

町長 今後、4地区のコミュニティ施設の建設、

統合保育所の整備、消防防災センターの建設など、大型事業が控えており、地方債残高は確実に増加が予想される。

一般会計では、3年後に約7億円の増加となり、約117億円の残高を見込んでいます。

非常に多額ではあるが、受益者負担を後年度にわたって平等に負担する負担公平の原則の下、交付税など財源措置のある有利な地方債の借入を中心に行なっている。

臨時財政対策債については、全て交付税措置されるものであるが、地方債残高の大きな要因でもある。

国の制度とはいえ、本来、交付税で地方に分配されるべきであり、町村会を通じ、国に対して制度の見直しを要請していく。

バーデン明日と舟見山周辺の観光開発を

合宿の受入れや観光振興を図る

問 バーデン明日が町有施設となることに、町民の期待は大きい。

農水商工などの地元の資源を経営に生かし、宿泊客と日帰り客のバランスを考えた健全経営を。

副町長 町民だけではなく、近隣市町の利用客に愛され利用されることが、経営の健全化につながるものと考えています。

また、特産品の販売や地元食材を使った料理の

提供、七夕祭りなど町内のイベントを結びつけ、より一層のサービス向上に努め、客数の底上げを図りたい。

問 今後、合宿の拠点として位置づけ、合宿誘致に力を入れるべきでは。

また、気軽に舟見ダム湖周辺を散策できるように、ダムまでの林道の拡幅整備を。

副町長 本町では、学生の合宿に対する助成制度もあり、温泉と豊かな自然環境は、合宿の受入れが充分可能であると考えています。合宿誘致のPRもしていきたい。

林道の拡幅整備については、長期的な計画の中で検討したい。

一方、舟見城址館までの林道拡幅については、新年度調査に入りたい。



舟見山周辺の観光開発を

「バーデン明日」を町民に信頼される組織で運営できるのか

町長 町が出資して設立した会社に指定管理の委託をして運営させる

問 町が取得したこの施設を適正に管理するための組織が未だに不透明である。どのような組織で運営するのか。

「バーデン明日」の活用



町の財産「バーデン明日」

に当たっては、舟見山や舟川ダム周辺と一体的な整備が必要であり、そのためには道路整備が急務である。

町長 町が出資して設立した新会社で、当面現在の運営を引き継ぐ。

新会社からは、常勤の管理責任者1名が運営に携わり、これまでの従業員と、58名でスタートする。

また舟見山周辺は、町の観光拠点と位置付けている。秋に完成する舟川ダム周辺に、展望台や駐車場、トイレなどを整備し、新たな観光資源としていきたい。

観光バスが舟見城址館



笹島 春人 議員

まで行けるようにするため、新年度に林道拡幅に向けた調査を実施する。

問 「バーデン明日」は老朽化しており、メンテナンスが必要になる。現状のままで活用し、大きな補修などは新会社にさせるべきである。

町長 この施設は町の所有であり、修繕や改修は、原則として10万円を超えるものを町が行う。

赤字の場合の責任は運営会社の責任で対応する

問 減価償却をしないで黒字と言われても評価で

きない。町は、どのような収支計画を想定しているか。

また「儲けは我々が、赤字は町が」では税金の垂れ流しになる。赤字の場合の責任体制を明らかにせよ。

竹島農水商工課長 町所有になれば、固定資産税や償却費が不要になり、充分運営できると判断した。

また、施設利用料金は運営会社の収入となる。従って、赤字が出れば運営会社の責任で対応してもらう。

暴力やいじめ、不登校などの実態と対策は関係機関との連携で早期解決に取組む

問 小中学校の暴力やい

じめ、不登校や虐待などの実態はどうか。どのように把握し、対策を講じているか。

教育長 「いじめ」が小学校で10件、中学校で1件発生した。小学校の1件を除いてすべて解決している。また暴力や虐待の実態はないが、不登校は中学校で11件発生しており、そのうち2件は解決した。

未解決の事例については継続して家庭をはじめとする関係機関と連携し、早期解決に取組む。

問 学校と地域との関わりをどのように考えるか。
教育委員長 様々な場で地域の力を活かしたい。そのためにも地域への情報発信は重要である。

入善の祭り

芦崎の春祭り

(えびす祭り)

航海の安全と大漁を祈って

芦崎地区は、かつて北洋サケ・マス船団の船主や出漁者が多く、北洋漁業の盛んな地区であった。

最盛期の昭和40年代半ばには、十数人の船主と300人を超える乗組員を擁し、漁業で大変賑わった地区である。

芦崎地区のえびす祭りは、古くから漁業者の航海の安全と大漁を祈願する祭りとして長年春に行われ、地域の青年団によって運営されてきた。

威勢のいい屋形船

祭りでは張子の鯛や打ち出の小槌などで飾られた、重さが2トもあるかと思われる屋形船が若者たちによって担がれ、

祭り囃子の笛や太鼓に伴われ、各家庭を一軒一軒巡航しながら地域内を練り歩く。

各家庭から花(祝儀)と酒肴が振る舞われると、青年団がお礼の口上を読み上げ、家内安全を祈って屋形船を威勢よく上下に振る。

一泊二日の巡航

地区内の諏訪社で御神体をお乗せした屋形船は、祭り初日の昼過ぎに出航し、地域内の家々を巡航した後、深夜には入善漁



大漁祈願のえびす祭り

港に面した金毘羅神社に寄航し、御神体はそこでお泊りになる。翌日、屋形船は、昼過ぎに残りの家々を巡り、深夜には諏訪社に帰航する。

サケ・マス漁の衰退と若者の減少

かつて北洋サケ・マス漁の盛んであった頃には、祭りは毎年3月の12、13日に行われていた。

船主の家の庭先には数十枚の大漁旗が掲げられ、剛毅な祭り一色となる。

漁業者はこの祭りを境に出漁準備に本腰を入れ、4月下旬には荒海の北洋へと出港したものである。

しかし現在は、北洋サケ・マス漁が衰退し、昔のような華々しい光景は見られなくな

また青年団員も少なくなり、屋形船の担ぎ手不足などから、祭りの運営主体が地域の役員などで構成される「祭り実行委



北洋への出漁風景

員会」に移行されるようになった。

近年は4月下旬の土日を選んで開催されるようになり、今年4月28・29日の土日開催される。

地域で伝承

この祭礼は、芦崎地区にとっては春を告げる重要な祭事であると同時に、地域が一体となれる行事でもあり、今後も地域全体で守り伝えて行かなければならないものである。

編集の窓

春を迎え、田おこしなど、農家は田植えの準備に忙しい。今年も美味しいおコメができるよう期待したい。

3月に、神通川流域に広がるカドミウム汚染田の農地復元が完了し、33年ぶりに全流域でのコメの作付けが可能になったということです。

福島県の一部に広がる放射能に汚染された土地も、必ず復元されるときが来るでしょう。

新年度から議会だより全号の表紙が、カラー印刷になります。今後もより親しみやすい誌面づくりに努めます。

議会広報編集特別委員会

議長	長田 武志
委員長	中瀬 範幸
副委員長	松田 俊弘
委員	鬼原 征彦
"	佐藤 一仁
"	笹島 春人
"	野島 浩